

入鹿小だより

～わくわく登校・ニコニコ下校～

熊野市立入鹿小学校
校長 樋口 佳洋
平成 30年 7月 3日
第 7 号

入鹿小学校地内のブロック塀について

先日の大阪府枚方市内で起こった地震に伴う校地内ブロック塀の倒壊を受け、入鹿小学校地内でもブロック塀の点検を行ったところ、合計4か所に違法（現在の建築基準法に合致していない）なブロック塀がありました。

1つめは、校門から学校へ上がって来るところの、空き家になっている教員住宅（校舎に近い方）に沿って設置してある塀です（写真1）。ここは、子どもたちが毎日通学に使っている所であることから、塀の反対側を歩くよう指導し、一時的にパイロンを置いて注意を促しました。

2つめは、先ほどの塀のすぐそばにある塀です（写真2）。保育所前から学校の奥の駐車場へ至る道の途中で、この道を子どもたちが歩くことはありませんが、保護者の皆さんは車で通ることはあります。十分気をつけてください。

3つめ4つめは、今は使わなくなったプールの敷地内にあります（写真3と写真4）。ただ、写真3につきましては矢ノ川方面からのバスを降りた児童たちが歩いてプール脇の坂を上って来るところで、ガードレールがあるので直接倒れてくる可能性は低いとは思いますが、通る際は反対側を通るように指導しました。写真4については普段施錠されているプール内にあるため、誰も近づくことはありませんし、県道に面してはいますがガードレールと溝で隔てられている状態です。

このように、本来安全であるはずの校地内に危険な個所があるとわかり、大変申し訳なく思っています。熊野市教育委員会としては早急に撤去などの対策を検討しているところです。

また、徒歩での通学路のブロック塀などの有無も点検し、何カ所かにブロック塀や石垣があることを確認しました。しかし、こちらは個人の所有ですので、建築基準に合致しているかの検査はできません。そこで、各ご家庭から特に集合場所までで、ブロック塀や危険そうな石垣がありましたら、学校へお知らせいただくと同時に、そこを迂回する、反対側を歩くなど、危険を回避する方法をお子様と話し合っただきたく思います。お手数をおかけしますが、よろしく願います。（裏面に参考資料があります）



写真1



写真2



写真3



写真4

では、具体的にどのようなものが危険なのでしょう。インターネットに掲載されていた例を紹介しますので、参考にいただければと思います。

【社団法人 全国コンクリートブロック工業会のHPより】

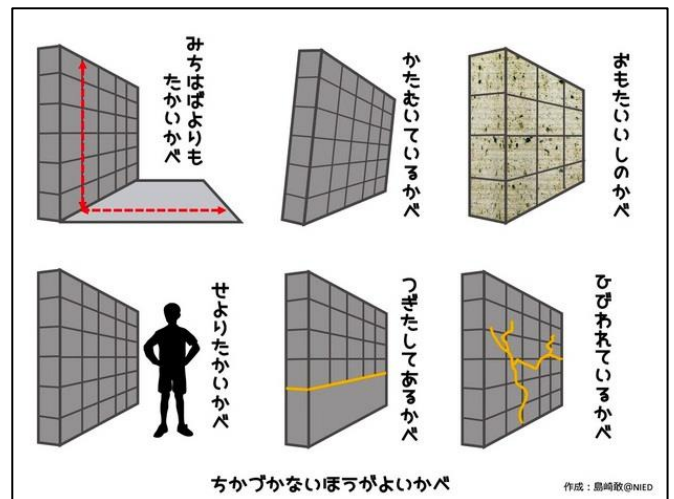


1. チェックポイント

<p><input type="checkbox"/>傾き、またはグラツキがある。 塀が傾いていたり、手で押すとグラツキがあるものは、少しの揺れで塀が倒れる危険性があります。手で押して調べるときは周囲に注意してください。</p>	<p><input type="checkbox"/>ひび割れがある。 ◎ひび割れは、その部分から雨水が入り 中にある鉄筋をさびさせ、長い間には鉄筋がなくなってしまいます。少しの揺れで塀が倒れる危険性があります。</p>	<p><input type="checkbox"/>高さが高すぎる。 ◎ブロックの厚さが10cmの場合は塀の高さは2.0m以下、15cmの場合で2.2m以下です。高い塀は強い地震の揺れで倒れやすくなります。</p>
<p><input type="checkbox"/>控壁の間隔がひろすぎる。また控壁がない。 ◎高さが1.2mを超える塀では控壁が必要です。その間隔は3.4m以下で、この間隔が広すぎたり、控壁がない場合は、強い地震の揺れで倒れやすくなります。</p>	<p><input type="checkbox"/>透かしブロックが連続して使用されている、また多すぎる。 ◎配筋用のエグレのない透かしブロックは必要な鉄筋が入りません。したがって、鉄筋の入っていないこのような塀は強い地震の揺れで倒れやすくなります。</p>	<p><input type="checkbox"/>築後30年以上たっている。またブロックがポロポロである。 ◎長い間にブロックが劣化し、雨水が入り鉄筋をさびさせて塀の耐久・耐震性に問題がでます。</p>

<p><input type="checkbox"/>石垣などの上に建っている。 ◎石垣の上の塀は、地震などの揺れに抵抗する鉄筋が、塀下の石垣に固定されません。したがって、少しの揺れで 塀が倒れることとなります</p>	<p><input type="checkbox"/>土留めに使っている。 ◎ブロックでの土留めは、後ろの土の重量を支えるだけのブロックの厚さや必要な鉄筋の本数が不足します。したがってこのようなつくりかたは地震で倒れる危険性が大です。</p>	<p>◎この他、下記の項目も調査すると、より安全な塀と確認できます。 ロブロック塀の基礎は土の中に35cm以上入っていないとなりません。基礎の部分を持ち起こして調べてください。この部分が浅いと地震の揺れにより倒れる危険性は非常に大きいものです。</p>
		<p>ロ塀の中には直径9mm (D10) の鉄筋が縦横とも最大80cm間隔に入っていないとなりません。必要に応じて、鉄筋探査機などで鉄筋の有無を調べることもよい方法です。</p> <p>ロ高さ方向に後から積み増しがされていないか調べてください。</p>

【防災科学技術研究所の特別研究員、島崎敢さんのイラストより】 ↓



外見からわかるものもあれば、外見だけではわからないものもあり、素人の目には判断が難しいものもあります。通学路点検の際も私たち素人の目ではどれが危険なのか判断しづらいものもたくさんありました。「危ないかな」という眼で見ると、全て危なく見えてしまうこともあります。それでもかまいませんので、地域にお住まいの方も、ここが危険かもしれないとお気づきのことがございましたら、学校まで連絡をいただければ幸いです。

入鹿小学校 0597-97-0029